

〈金沢支部〉

金沢支部あれこれ

— 地域交流並びに新名所紹介 —

昨年四月に学生支援事業を総合的に実施する「独立行政法人日本学生支援機構」が誕生し、一年近くが経過した。そこで、今回は金沢支部がある金沢国際交流会館（以下、「会館」という。）の施設の紹介と昨年四月から現在までに取り組んできた留学生交流、地域の新しい観光スポットについて話を進めていきたいと思います。

金沢支部が管理・運営している会館は石川県と合築。建物は六階建てであり、当機構が所有する部分は二階と三階。単身部屋四四室、夫婦部屋五室の合計四九室である。会館は他の建物よりも、館費が安く、綺麗だということで、外国人留学生（以下、「留学生」という。）の間では人気が高い。建物全体では一〇八室あり、現在二三か国一〇〇名以上の留学生が交流を目的に留学生活を送っている。

金沢支部としては二三か国一〇〇名以上の留学生は宝であり、核である。その核をフルに生かして地域交流の拠点になればと考えながら、日夜活動を展開している。

二つ目は、地元の小中学校からの依頼である。その小学校にはエジプト出身の児童がいるのだが、日本人教師はアラビア語が話せず、児童も日本語がまだ理解できない。そのため、アラビア語が話せる留学生を紹介して欲しいというものであった。言語も習慣も文化も、何もかもが異なる生活の中で、その児童は大きな不安を抱えていたようだが、少し年上の留学生に相談することで、日本の言語や習慣を覚え、壁を一つ一つ乗り越えていったようだ。留学生も現在はその小学校での採用が決まり、「民間協力員」という立場で小学校に勤務している。

三つ目は、公民館主催による国際交流事業の「聞いて！わたしのお国のお話」に、ネパール、ハンガリー、バンングラデシュの出身の留学生を紹介した。この事業は地元の住民の皆さんに、留学生それぞれの出身国の文化や生活等の違いを知ってもらうのが狙いである。

現在は会館のある地域、地元を中心に交流活動を進め、足場を固めていきたいと思っている。

最後に、地域の新しい観光スポットを紹介したい。昨年の年末、暖冬といわれながら金沢の街中にも雪がついに降った。足元が悪くなりながらも、やはり雪が降らないと北陸に冬が来たという感じがしないものである。そして、金沢と聞いて思い浮かべるものといったら恐らく兼六園、金

次に、今までの地域交流で主な交流三点を紹介したい。まず始めに、金沢市中央消防署より、秋季火災予防運動の一環として留学生の方に一日消防署長の依頼があった。金沢市中央消防署の話では、今回は秋季火災予防運動で、金沢に住む外国人の人達に火災予防の重要性を考えてもらう運動として、これから留学生が多くいる会館に話があった。

金沢市中央消防署の希望等をお聞きした結果、チエル・カタリンさん（ハンガリー出身）を一日消防署長に紹介。当日は金沢市中央消防署長から一日消防署長の委嘱状を受け取った後、放水訓練やはしご車を体験。その後、金沢の中心街にある香林坊アトリオ広場にて「火の用心」の広報活動を行った。

また、会館居住の留学生を対象に「留学生防火教室」を開催してもらった。当日は三五名の参加者があり、一一九番通報訓練、応急手当訓練、消火訓練、地震体験車試乗もあった。地震体験車試乗では先日の新潟中越地震の恐怖を体験。地震の怖さを改めて考え、てくれたようだ。



沢城跡公園や東山茶屋街等の観光地ではなからうか。金沢は時に小京都と呼ばれ、昔ながらのたたずまいを残す場所が多く残っている地である。

しかし、昨年の一〇月九日、金沢二一世紀美術館が完成した。美術館といえば、棟瓦造りの重厚な建物を想像するのであるが、こちらは「二一世紀」と名がつくくらいであるからして、上から見ると円形で、周りがガラス張りという建物であり、一見したところ美術館とは思われない。しかもこの美術館では作品の内部を覗き込んだり、人間が真空パックされてしまったりなどという体験できる「動」の空間が存在するのである。これまでの美術館とは「静」の空間であるという既成概念を見事に覆される思いがした。またこの美術館の特色として注目したい点は「まちに活き、市民とつくる、参画交流型美術館」（二一世紀美術館HP）
二一世紀美術館とは、美術館の特色②より引用）である。金沢支部としても留学生と地域住民などが交流を深める「広場」的な役割を果たせる場所となるよう、今後も業務に励む次第である。